

# 「喬木村で子育て」を住民の誇りに

ICTの活用による  
未来に生きる子どもたちのための教育の実現

人口 6,509人

喬木第一小学校 児童数 320名  
 喬木第二小学校 児童数 48名  
 喬木中学校 生徒数 209名  
 (平成30年1月1日現在)



喬木村長 市瀬 直史

# 1 喬木村がICT活用に取り組む理由

## 小規模校の統廃合問題

### 地域の声

「地域の活力としての学校を存続させたい」



### 小規模校の課題

「人間関係が固定化し、多様な考えに触れる機会が少ない」

次期学習指導要領が  
目指す教育の実現

- ・多様な他者との協働
- ・ICTの効果的な活用

- ・生きて働く知識技能
- ・学び続ける力
- ・未知な課題への応用力

変化の激しい  
未来を生き抜く力の育成



本村のような中山間地域においても、多様な他者の考えに触れ、協働し、新たな課題や価値を見出し解決していけるような、教育の環境と質の改善が必要

## 喬木村が取り組んだ魅力的な教育環境づくりのポイント

**Point 1** 地方創生の施策に「教育」を位置づけ

**Point 2** 首長部局と教育委員会事務局の密な連携

**Point 3** 文部科学省事業への積極的な参加 ※1

**Point 4** ふるさと納税の財源をICT機器整備に活用

※1「人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業」  
「ICT活用教育アドバイザー派遣事業」

## 2 遠隔合同授業による小規模校の課題解決

協働していけるような環境をつくらなければならない

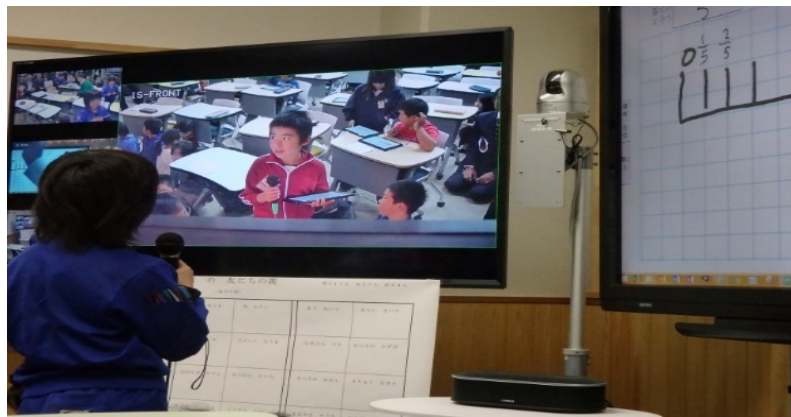
H27~29 文部科学省  
「人口減少社会におけるICTの活用による  
教育の質の維持向上に係る実証事業」

1年生



遠隔で交流。音楽会で発表した歌を見せ合っている

3年生



分数の足し算。カメラを通して意見交換。

5年生



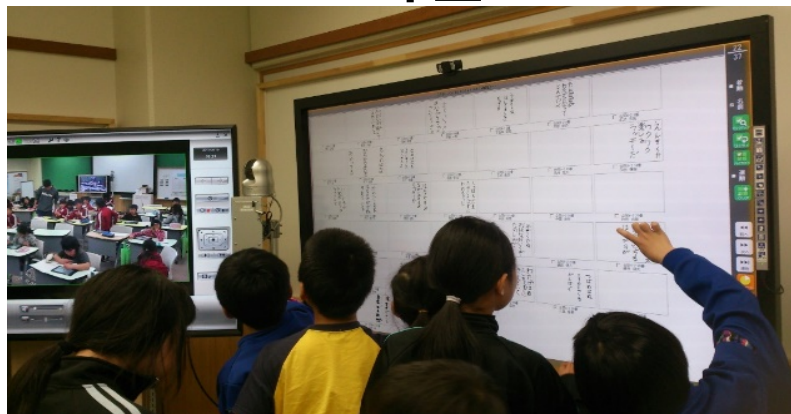
喬木村をPR。2校混合のグループで協働して課題解決

2年生



秋探し。2校の地域の違いを発見していく

4年生



俳句作り。電子黒板でそれぞれの作品を共有

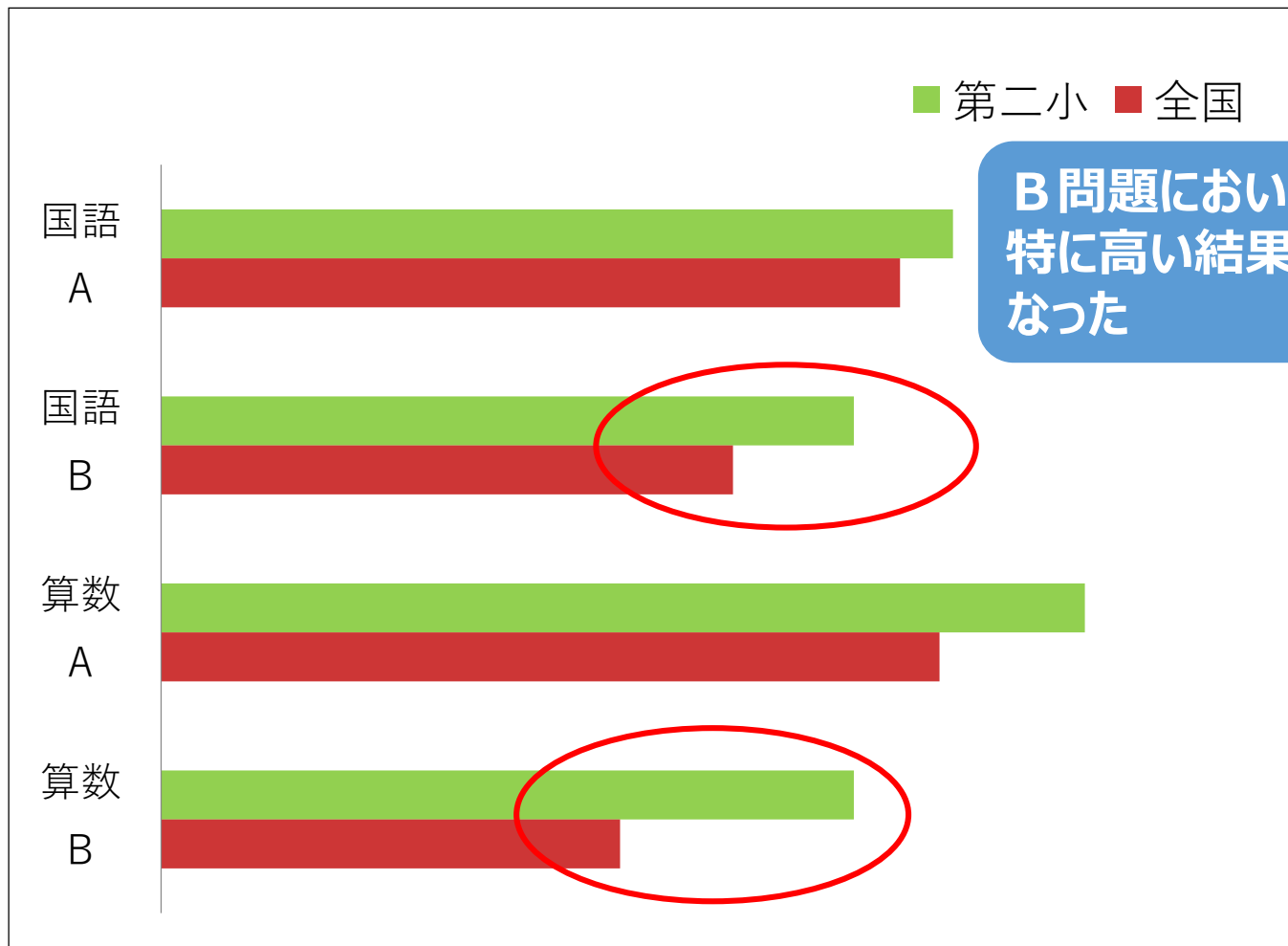
6年生



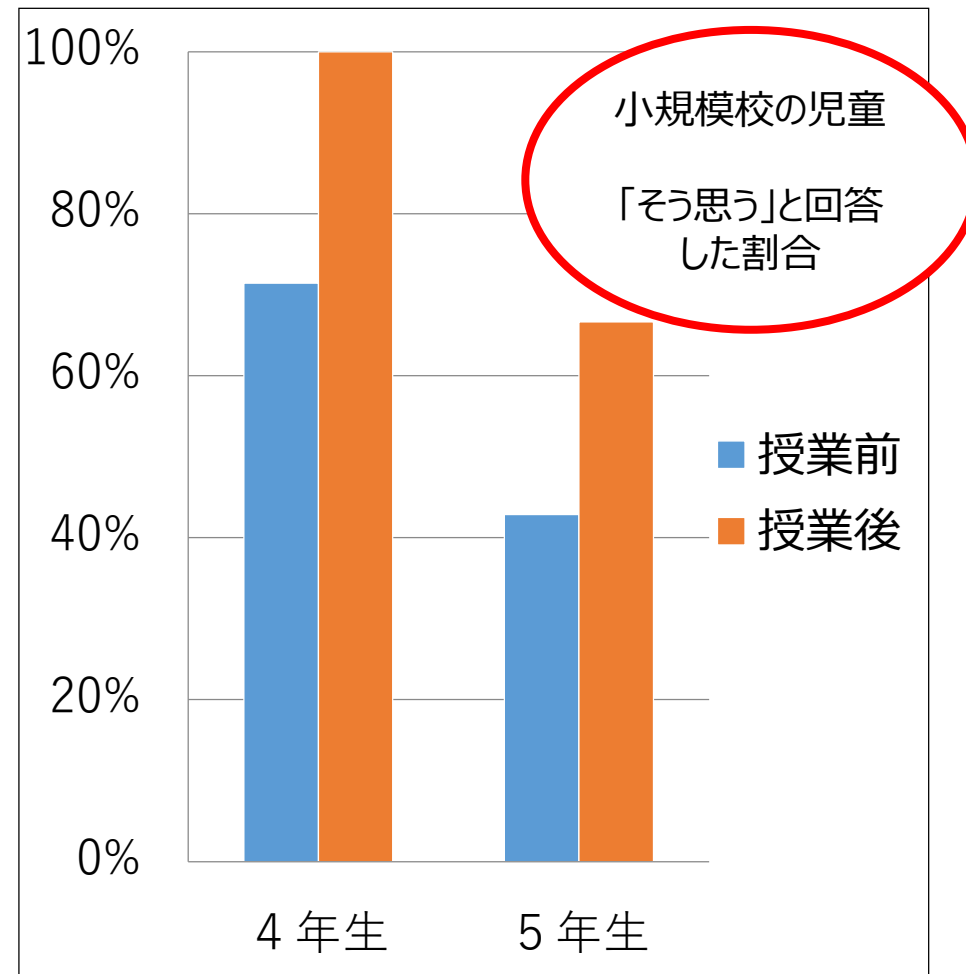
英語でインタビュー。相手校に英語で好きなことをインタビュー

### 3 小規模校の成果

平成29年度全国学力学習状況調査の結果



Q. 自分と違う友だちの考えや意見を聞いて、自分の考えを深めることができていると思いますか。



# 4 中学校の授業改善

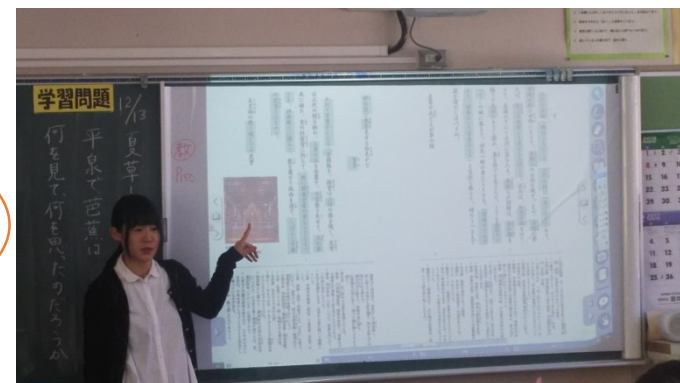
・教員主体の一斉授業から生徒主体の協働学習へ

## 機器整備

平成27年度

1人1台 タブレットPC  
全普通教室 常設の電子黒板

「ふるさと納税」  
「ICT活用教育  
アドバイザー派遣事業」



## 教師のICT活用能力向上

平成28年度

わかりやすい授業 自作資料  
指導者用デジタル教科書

「ICT支援員の配置」  
「ICT教育推進  
パイロット校」



## 生徒主体のICTを活用した学び

平成29年度

深い学びの実現 協働学習

学力向上

## 長野県ICTシンポジウムの開催

・全クラスが1人1台のタブレットを活用した授業を公開



# 5 中学校の成果（長野県ICTシンポジウムの開催と学力の向

長野県ICTシンポジウム（平成29年11月13日）

全クラスで1人1台のタブレットを活用



数学：弧の面積を多様な解き方で協働的に追究



社会：死刑制度の是非について資料をもとに討論



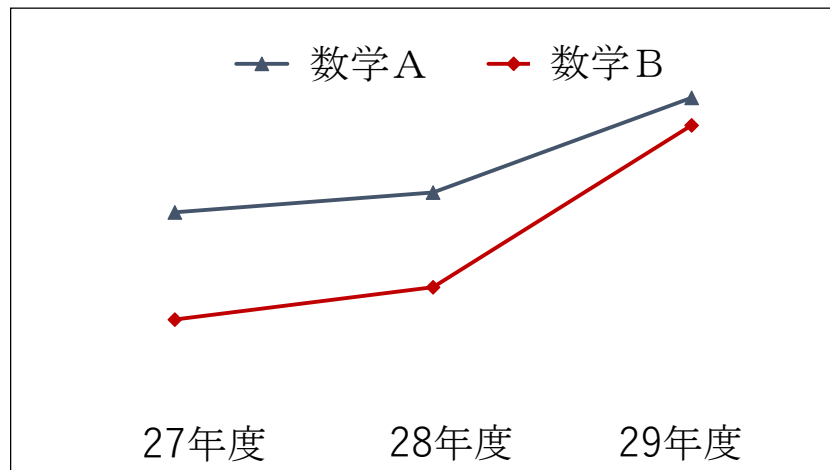
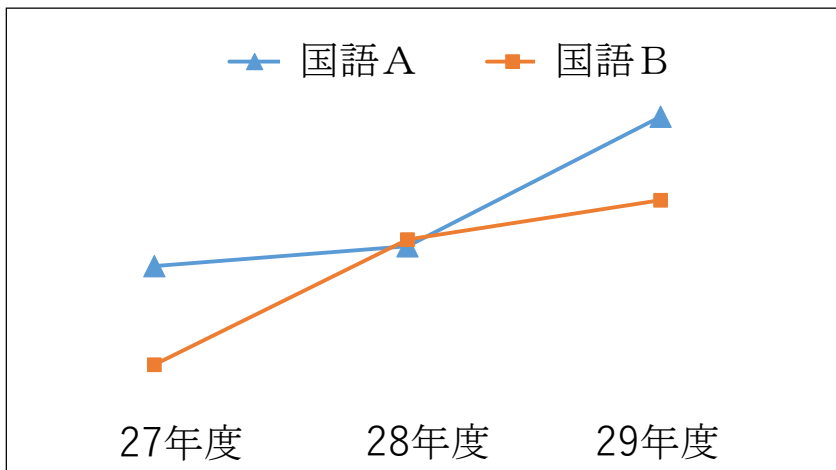
音楽：ボーカロイドで喬木村をPRする曲を作成



保健体育：傷害の防止について共同編集でケーススタディ

## 全国学力学習状況調査の推移

## 教員の授業改善



一人一台のタブレットを活用した主体的で探求的な授業の実践を積み重ね



教員研修  
ICT支援員

教員の授業改善

## 6 学校外の学びの場の提供

- ・ **1人1台**のタブレットPCを活用したドリル学

習

### 【たかぎ土曜塾】

「自分で学ぶ力」を育てる学習支援の場

- ・ **小学校4～6年 対象**
- ・ **毎週土曜日 午前 or 午後**
- ・ **45名 参加**



**学習習慣の定着  
学校外での学習機会  
の拡充**

「スタディサプリ小学講座」を活用。  
苦手克服や復習など**自ら課題を設定**して、**自分のペース**で  
学習を進める。

### 【たかぎ未来カレッジ】

「自主・自立」～自ら考え、自ら学ぶ場～

- ・ **中学校1～3年 対象**
- ・ **毎週水曜日 放課後**
- ・ **32名 参加**



「eboard」と「eライブラリ」を活用  
自ら学年を遡って振り返りをしたり、授業の予習に  
取り組んだり、**自主的**に学習を進めている。

# 7 機器整備状況とICT支援員の配置

## 常設電子黒板

	小学校	中学校
普通教室	100%	普通教室 100%
特別教室	50%	特別教室 70%

## タブレットPC

	小学校	中学校
教員用	100%	教員用 100%
児童用	50%	生徒用 100%

※1人1台を100%とした場合

## 無線LAN

	小学校	中学校
普通教室	90%	普通教室 100%
特別教室	36%	特別教室 100%



### 各種デジタルコンテンツ

- ・デジタル教科書
- ・授業支援ソフト
- ・デジタルドリルetc

## ICT支援員の雇用形態と雇用数の推移

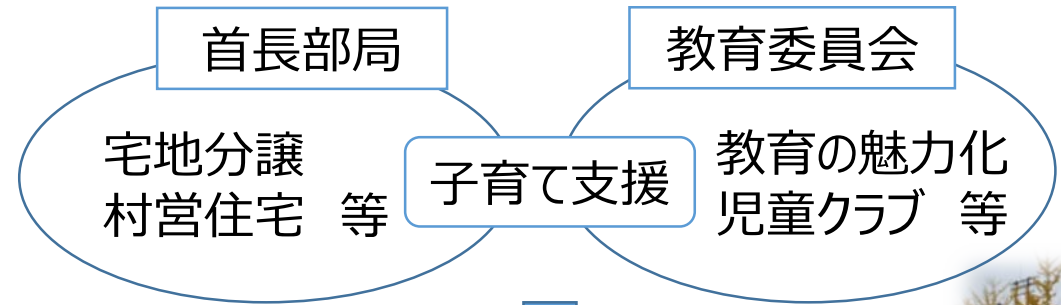
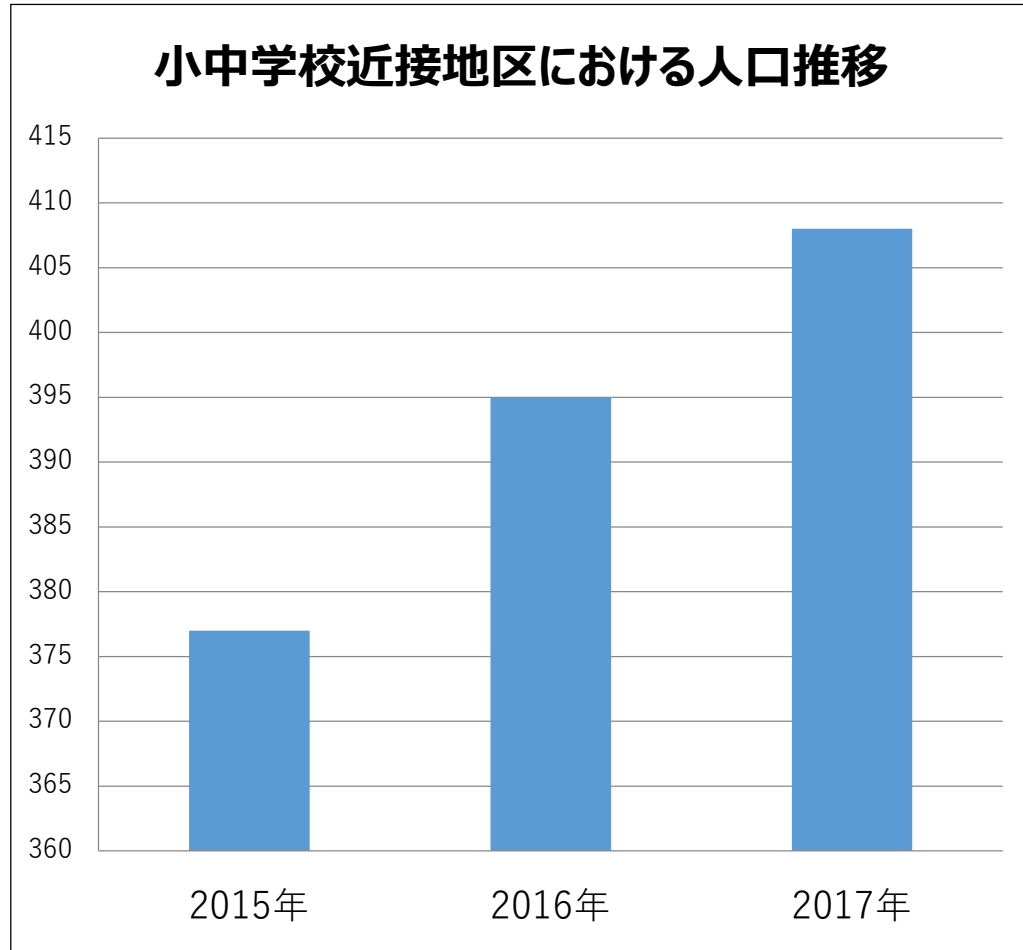
	雇用形態	人数
27年度	臨時職員 (実証事業予算)	2名
	嘱託職員(村費)	1名
28・29年度	臨時職員 (実証事業予算)	2名
	正規職員 (教育CIO補佐)	1名
30年度 (予定)	臨時職員(村費)	2名

ICT支援員配置の必要性と効果を認識  
⇒平成30年度 CIO補佐の**正規雇用**へ



# 8 人口の流入

## ・首長部局との一体的な取組



子育て世帯の移住



宅地分譲(第一小学校区)  
平成26年 13戸



村営住宅(第二小学区)  
平成28年 7戸



# 9 今後の展望

## 今後の方針

- ①すでに導入されている機器のさらなる活用促進
- ②実証事業の取り組みを村独自で継続
- ③校務の情報化
- ④思考力・判断力・表現力の向上
- ⑤プログラミング教育
- ⑥外国語活動の充実

## 具体的な施策

- ①計画的な教員研修の実施と村主催の「ICT公開授業」を開催する。
- ②継続的な予算付けと村主催の「遠隔合同授業公開研究会」を開催する。
- ③平成31年度長野県の統合型校務支援システム共同調達へ参加する。
- ④プレゼンテーションを取り入れた学習展開の開発、村主催のプレゼンテーションコンテストを開催する。
- ⑤情報活用能力育成の年間計画の作成とそれに沿った体系的な取組を行う。
- ⑥すでに実施しているオーストラリアとの遠隔交流の継続、その他の外国との遠隔交流を計画

